



「速報」は大きな行事や出来事を皆で共有する為に発行します。

発行：令和6年3月
山城ネット（情宣チーム）

第5回 3月16日(土) 13:00～ 於：京都府聴言センター 聴覚障害者の豊かな暮らしを考える 山城研修会(暮らし研修会)

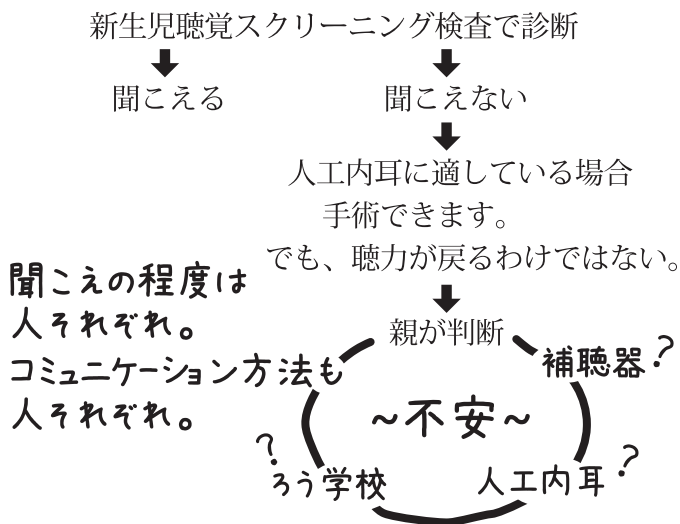
～難聴児の暮らし～

地域の運動から始まった
聞こえない子どもたちの居場所づくり

解説：岩城宏充氏(社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会)



●第1部 聴覚障害児への支援●



- ・親が自信をもって子育てができる。
 - ・差別や偏見なく手話を使い、学べる。
- これらの機会を保障し、聴覚障害者の社会参加を進める法整備が必要。

放課後等デイサービスの様子

北部：通学支援事業（舞鶴のろう学校の分校）
京都市：「にじ」放課後に集まって交流。
現在待賢小学校の跡地で実施。
壬生にできる新しい京都社会福祉会館に移転予定
「にじっこ二条」就学前の聴障児と親が集まって交流（月1回）
南部：「にじっこ城陽」就学前の聴障児と親が集まって交流（月1回） 於：府聴言センター
「こどもカフェ」就学後の児童が集まり交流（月1回） 於：府聴言センター

難聴児のお母さん、八幡市の平原さんの場合

新生児スクリーニング検査の診断結果、
“聞こえている”との診断。

ところが、言葉に遅れがあり、相談。
自閉症かもしれないと言われ、ショックを受けた。

病院で難聴と診断される。

ろう学校か？ 地域の学校か悩む。

- ・市役所に聞いたら、教育委員会に相談して下さいと言われた。
- ・教育委員会では、市役所の福祉課に相談して下さいと言われた。
- ・地元小学校に「ここに通わせたい」とお願いしたが、断られた。



じゃあ、うちの子はどこに行けるの？
何度も食い下がった。

本人の意思もあり、ろう学校を選ぶ。

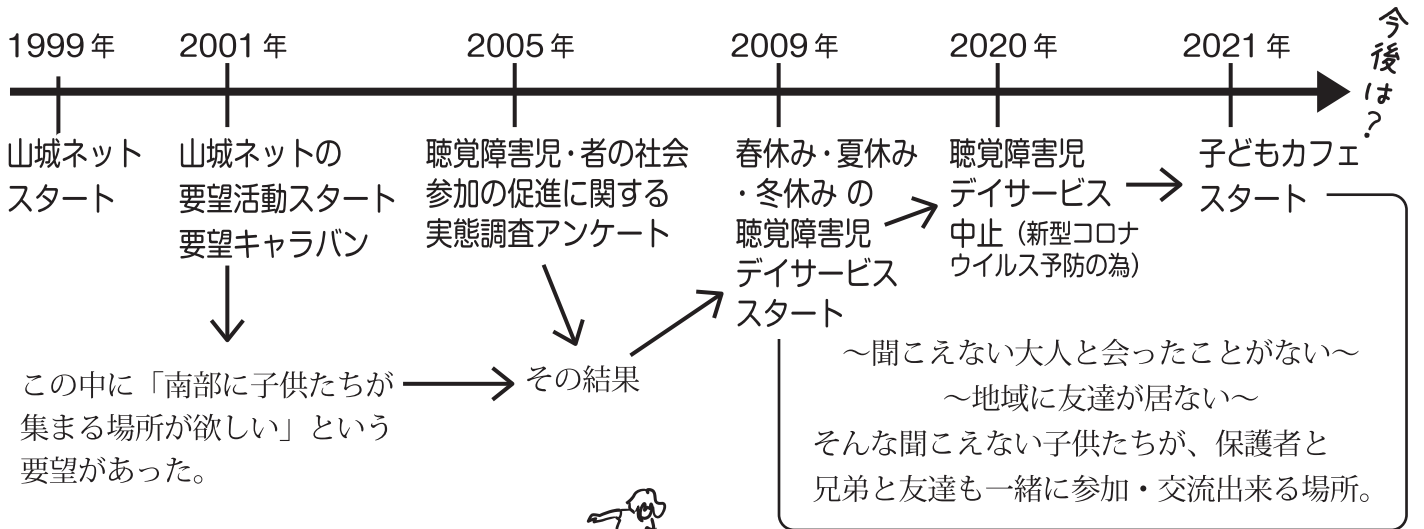
その後、法人を紹介してもらった。

我が子の障害を、なかなか受け入れられない。
何とかして聴力を取り戻す方法を考えていた。

しかし
活動を通して、子供の障害と向き合って考えられるようになった。

“一人で悩まないで！ 頼ってもいいんだ”
と、悩んでいるお母さんに伝えたい。

●第2部 難聴児デイサービス（聞こえない子供の居場所づくり）●



～利用者の感想・意見（抜粋）～

- ・最初はドキドキしたけど、良かった。
- ・ここでは手話でお話ができる。嬉しい。
- ・普段、補聴器してるの私だけ。でも、ここには補聴器つけてる子、私と同じ子、いっぱい居る。
- ・うちの子（聞こえない）は普段、近所で遊ばない。だから、休みの日、起きてても着替えをしない。でも、ここに来るようになると、キチンと着替える様になった。



- ・当時デイサービスに通っていた子供が、今、成人し、青年部で活動している。それが私の誇り。
- ・実行委員が講師の調整やピラ作りもやっていた。すごい。
- ・今、息子が手話と関わっている。それは、ここでの経験のおかげ。
- ・他の児童デイで仕事をしていた。難聴学級の子、ろう学校の子。部屋の中では分かれて遊ぶ。でも、外では関係なく一緒に遊んでいた。
- ・2020年、コロナが蔓延。開催できなくなった。活動10年を迎えたので、記念冊子を作った。今、山城ネットは大人の活動が主になっている。もしも、子供や家族も一緒に活動できたら、暮らしやすい社会になると思う。

～青年部で活動している ろう者からも～



青年部は18～35歳。
以前は100人ほど居た。
今は30人ほど。
20代後半が多い。
児童の活動に関わって交流したい。
皆さんにも協力をお願いしたい。



～実行委員（ボランティア）の感想・意見（抜粋）～

- ・いろいろな立場の人と出会って、一人ではないと実感できた。
- ・ろう者の参加は、私ひとりだけ → ろう者に、もっと関わって欲しい。
- ・聞こえなくても関係なく、社会で選択できる世になればよい。



～最後に～

かつて、聞こえない子供に対する取り組みがなかった。始まりは、故福田真海子さんとの出会い。今も遺志を継いでいる。
聞こえない子供の90%は、聞こえる親から生まれている。
ほとんどの親が聴覚障害のことを知らない。
この学習会は、毎年やりたい。

アンケート回答（抜粋）

- 平原さんのお話に感動した。
- 難聴児のデイサービスの活動を初めて知った。
- この活動が続いてほしい。
- 子供だけではなく、保護者にとっても良い取り組み。
- 子供たちを皆で育てていこうという意識が大切。
- 自分が聞こえないので、ボランティアに参加することを躊躇していた。難聴者（当事者）として、もっと関わるべきだ。反省した。

「暮らし集会」で取り上げてほしいテーマは？

- 就労支援
- 優生保護法
- 青年部のこと
- 当事者と関係団体が力を合わせて活動できる秘訣
- 協会の在り方やサークルの在り方について
- 中途失聴者のコミュニケーション手段として何を望むのか、本音を聞きたい